

地域に密着した市町村道の減災対策推進計画(防災・安全) (事業区分:道路防災)

1. 長野県の現状と課題

【現状】

長野県は、本州のほぼ中央に位置し、面積13,562km²(全国第4位)の広大な山岳県である。北アルプス等、四方を高い山々に囲まれ、これら急峻な山地と複雑で脆弱な地質のため、自然災害に弱いという特質があり、特に地域を結ぶ中山間地の道路には様々な災害リスクが存在する。

東日本大震災にも見られるとおり、災害による地域の寸断による人的、物的な損失を鑑みた場合、事前の防災対策の必要性が増している。

【課題】

大規模自然災害が発生した際の避難所の指定・整備が進められる中、それらと医療施設など生活に不可欠な施設を結ぶ道路の安全性が確保されていなければならない。

多岐に亘る道路網においては、急峻な箇所のため道路法面からの落石等による道路通行止めや第三者被害の発生、市街地にあつては古い基準で架設された橋梁の大規模地震での落橋による長期通行止め、及び落橋による第三者被害の発生などが懸念される。



落石による全面通行止

2. 計画の目標

災害に強い交通ネットワークを確保することにより、安全で安心な道路環境整備を推進する。

3. 事業の内容

【計画の期間】平成23年度～平成27年度(5年間)

【事業実施主体体】44市町村

【計画の成果目標】

計画の成果目標	H23(現況値)	H27(目標値)
対象ルートで安全に通行できる延長の割合※1		100%
落石等対策箇所、橋梁要補強箇所等の改善を図る		87箇所

※1 (道路通行者の安全度) = Σ (対象ルートの安全通行可能延長) / Σ (対象ルートの改善必要延長) × 100

【事業の主な内容】

基幹事業 : 構造物修繕、道路防災(道路拡幅・橋梁架替・法面对策)、橋梁耐震補強
 関連事業 : なし
 効果促進事業 : なし

【事業数と事業費】

	県	市町村	計
基幹事業	-	100事業 36.2億円	100事業 36.2億円
関連社会資本整備事業	-	-	-
効果促進事業	-	-	-
計	-	100事業 36.2億円	100事業 36.2億円

※事業費は精算額としているため、整備計画の事業費とは合わない場合があります

4. 事後評価の結果

【目標値の達成状況】

計画の成果目標	H27(目標値)	H27(実績値)
対象ルートで安全に通行できる延長の割合※1	100%	75%
落石等対策箇所、橋梁要補強箇所等の改善を図る	87箇所	83箇所

※1 (道路通行者の安全度) = Σ (対象ルートの安全通行可能延長) / Σ (対象ルートの改善必要延長) × 100

■事業効果の発現状況 (代表的な効果例)

- ・法面对策により、安全性の確保と災害時の迂回路としての機能が向上した。
- ・危険箇所を解消したことにより、病院へのアクセス向上につながった。
- ・落石や崩落による通行止が無くなり、安全安心な通行が確保できた。
- ・鉄道の運行及び通学路の安全性が確保でき、安心感の向上につながった。
- ・耐震補強により、地震時に落橋の不安が解消され、通行の安全性が向上した。
- ・耐震補強により、避難所から緊急輸送路や防災備蓄倉庫等への安全性が確保された。



道路防災(橋梁架替)



道路防災(法面对策)

5. 評価と今後の方針

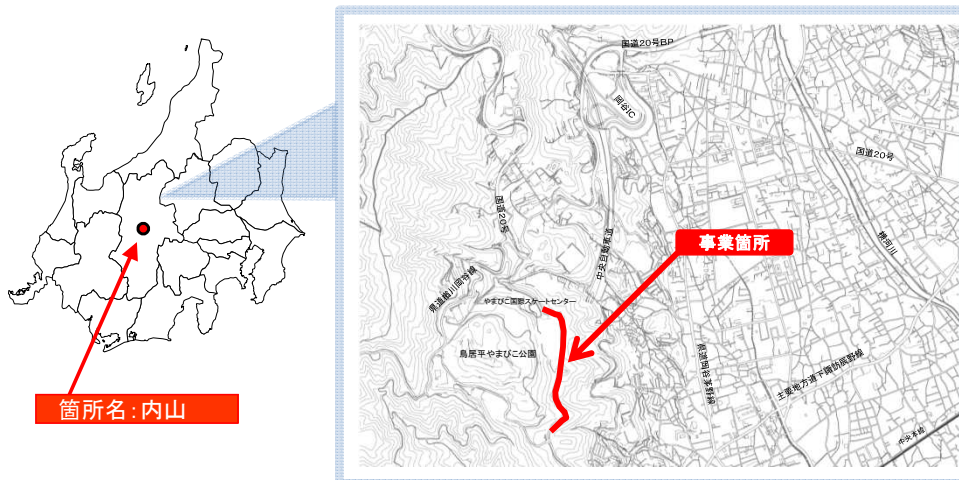
東日本大震災から得られた教訓を踏まえ、必要な事前防災及び減災を実施することにより、大規模自然から道路利用者の生命及び財産の保護並びに生活や経済に及ぼす影響の最小化が図られた。

今後は、整備した道路の適切な維持管理に努め、定期的な防災点検を実施することにより、より安全な道路環境を目指していく。

整備効果事例

事例① 構造物修繕事業 岡谷738号線 岡谷市 内山

■位置図



箇所名:内山

■整備効果

整備前



土留擁壁が崩壊し、通行に危険な状態であったため、全面通行止の措置を行った。

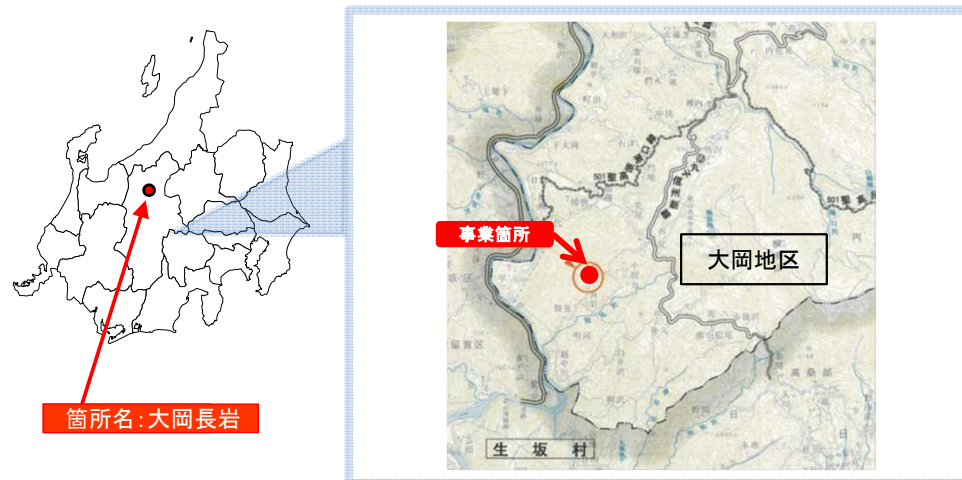
整備後



市街地から運動施設等への通行が確保されるとともに、緊急時の迂回路としての位置付けが担保できた。

事例② 道路防災事業 芦ノ尻御曹子橋線 長野市 大岡長岩

■位置図



箇所名:大岡長岩

■整備効果

整備前



車のすれ違いが困難で線形も悪く、危険な道路であった。

整備後

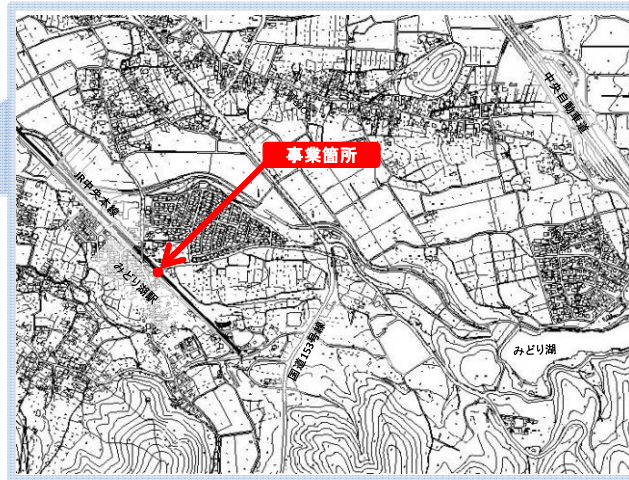
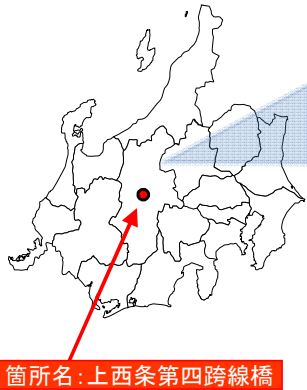


道路が拡幅され、危険箇所が解消されることにより、病院等への通行の安全性向上につながった。

整備効果事例

事例③ 橋梁耐震補強事業 国鉄側道線 塩尻市 上西条第四跨線橋

■位置図



■整備効果

整備前



古い基準で架設された橋梁であったため、大規模な地震の際に落橋する可能性があった。

整備後



耐震補強対策をおこなうことで、鉄道への落橋防止と、緊急時の通行の確保が図られた。